

令和 6 年 5 月 2 7 日現在

機関番号：14401

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2023

課題番号：19K23101

研究課題名（和文）Disorder and the Japanese Revolution: A Global Intellectual History

研究課題名（英文）Disorder and the Japanese Revolution: A Global Intellectual History

研究代表者

ガデミ アミン（Ghadimi, Amin）

大阪大学・大学院人文学研究科（言語文化学専攻）・講師

研究者番号：30844815

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 800,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究の成果には、トップの国際ジャーナルで査読付き論文2本、影響力のある編著で招待論文2本（一つは未出版だが、執筆完了）、査読なしの論文、多くの国際学会での研究発表などがあった。全ては、暴力の思想的側面、特に、言論と暴力の関係性についてである。また、本研究のテーマの延長線上にある他の査読付き論文や研究発表もあった。著書の執筆も進んでいる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、明治維新直後の政治的・社会的無秩序の思想のおよび文化的側面を検討する。言論と暴力の関係性に焦点を当てる。グローバルな思想や考えがいかんして日本に入り込み、社会秩序に影響を与えたかを、暴力事件などを通して明らかにする。日本の「革命時代」において、「思想の競争」がいかんして「武力の競争」に陥ったかを考察する。

研究成果の概要（英文）：My research project has yielded two peer-reviewed articles in international journals; two book chapters in authoritative anthologies (one is forthcoming); several peer-reviewed and non-peer-reviewed essays on topics emerging from, but not directly under, this research topic; and several conference presentations. Although I did not achieve my initial goal of completing my book manuscript, the project has yielded a manuscript's worth of research output in other forms. More important, perhaps, I have gained what I needed and was unable to find at the start of the project: a clear sense of how to complete my manuscript. I have greater clarity on what deletions, additions, and revisions are necessary for my published book. I also have a vision of what second manuscript my research will lead to. I am grateful for my research funds.

研究分野：近代日本のグローバル思想史

キーワード：無秩序 思想 内戦 反乱 革命

1. 研究開始当初の背景

本研究は、「日本では民主主義はどのように生まれたのか」というごく素朴な問いから出発した。それに対して、次のような仮説を立てた。「グローバルへの革命」であった明治維新は、「グローバル」という問題を解決しようとしたさまざまな思想的戦略を生み出した。「グローバル」とは、「近代」のように、時期をも指し、国際的繋がりが強まりつつある世界の中に意識的存在していく個人と社会の状態をも指す。このグローバルという問題を解決するための各種各様の思想は、明治の公共圏に「競い合った」。民主主義はその競い合う思想システムの一つに過ぎなかった。このいわゆる思想の競争は、武力を伴う競争にも移った。換言すれば、民主主義は、グローバルへの革命という危機的な状態を解決すべく考え出された数多くの思想的戦略と競い合って、暴力を生み出しながら日本で広まった。

2. 研究の目的

研究には、主に三つの目的があった。その二つは実証的な目的であり、一つは理論的な目的であった。

- (1) まず、民主主義などグローバルな思想 (= ideas) が日本ではどのように誕生したのかを明らかにする。この目的は、「思想はいかにしてグローバル化するのか」というより広い問題を、日本と民主主義というより狭い事例を通して検討することに等しい。つまり、日本を思想の世界的伝播のケーススタディとして扱うことである。
- (2) 次に、明治前期、主に 1870 年代において、なぜ暴力が蔓延したかという問題に対して答えを提案する。この問いは、経済史や社会史、政治史などさまざまな視点からアプローチできるが、本研究では、それらを網羅する思想史の視点から見ていく。

上記にある研究の仮説に沿って研究すれば、(1) を達成するには、(2) が必要となる。思想のグローバル化というのは、競争を中心とした過程であるのならば、それは、民主主義の起源と発展を他の思想の形成と切り離して理解できないということになる。また、その競争は暴力にも陥ったのであれば、思想のグローバル化は、明治における暴力の蔓延をも説明する。人々がどの思想的システムが「勝つ」かを左右するために腕力を振るったのであれば、それによって明治前期という革命的な時期における暴力の異常な集中度が説明される。

(3) 最後に、理論的目的だが、「グローバル思想史」という割と新しい、先進的な研究手法を用いることにより、その手法を日本史へ応用する事業を先駆し、日本史をフランスやアメリカなど他国の歴史と同等にグローバル史の中に位置づける目的である。このことについて、次の「研究の方法」で論じる。

3. 研究の方法

研究の方法を、理論的枠組みと、実証的对象に分けて論じる。

まず、理論である。本研究は、「グローバル思想史」という 2010 年代に開発された先進的な研究方法を利用する。英語圏における思想史学分野は、社会史や文化史に淘汰され、長年停滞してきた。しかし、歴史学全体が「グローバル史」へ展開した中、Samuel Moyn や Andrew Sartori などの顕著な思想史学者がその新しい視点を受けて、いかにして思想史を再生化できるかを問うた。思想史を超地域的に考え、比較と繋がりを重視しながら、グローバルな規模を持つ思想の伝播や流れのみならず、グローバルについての思想をも研究対象とすべきだと主張した。つまり、グローバル思想史は、「グローバル思想」とは何かを歴史的に考え、歴史において、人はグローバルという現象についてどう考えたかを研究対象にする。本研究は、民主主義などを「グローバルについての思想」の例として挙げ、それらの「グローバルについての思想の競争」を課題としている。

次に、実証的な側面である。本研究は、思想を暴力と結びつけることで、反乱や暴力事件などの思想的・文化的側面を取り上げる。明治前期の主な暴力事件を取り上げる。つまり、サハリンにおける暴力をはじめ明治六年政変を引き起こした諸問題、その直後の放火事件や暗殺事件、台湾出兵と江華島事件、佐賀・熊本・萩などに相次いだ土族反乱、そして西南戦争などである。これらの暴力事件のグローバル思想的側面を考えるため、さまざまな資料を用いるが、新聞やマニフェスト、建白書など「公」に表されたものが中心である。

4. 研究成果

科研費のおかげで、著書の執筆が進んだ。原稿をまだ完成させていないが、史料調査や原稿の執筆にはかなりの前進があった。明治六年政変における司法省の役割、台湾出兵と国内の新聞

業界の関係、宮崎兄弟の熊本で歴史、萩の乱、熊本における L L Janes の影響とその神風連の乱との関係などについて、新しい発見があった。また、より重要なことに、プロジェクトについての自分の構想を再検討できた。上記の目的や方法の足りないところのいくつかに気がついた。まず、思想の競争と武力の関係性を勉強する上で、土族反乱や自由民権運動のみに注目するのは不十分だということである。いわゆる百姓一揆や新政府反対一揆を視野に入れなければならない。徴兵制の導入とそれがもたらして反対運動もさらに検討すべきだ。また、研究の政治的位置付けが薄すぎることに気づいた。政府内の葛藤や対立をより深く理解した上で、その暴力との関係について調査する必要がある。このように前途が見えたのは、最大の成果である。

実際の研究発表について、下記のものがあった。

Modern Intellectual History という、英語圏において思想史分野で最も影響力があり、最も先進的である国際ジャーナルに、西南戦争と同時代の露土戦争の思想的関係性について論文を発表した。そこで、「革命」という概念の思想的起源を検討した。同じく影響力のある国際ジャーナル Journal of Social History には、新井章吾と自由民権激化事件について論文を投稿した。時代は研究の中心から少し離れているが、暴力の思想的側面とグローバル思想の国内への影響という同じテーマを扱っている点で相違ない。『自由の燈』という 1880 年代の新聞を中心とした、インドの植民化と、ロシアと英国のちり政治学的競争が日本のテロリズムの起源とどのような思想的関係があったかを検討する試行的な査読なし論文をも出版した。

著書、訳書にも成果を発表した。日本の官僚制の起源を徹底的に調査する清水唯一郎氏の『近代日本の官僚』の英訳をプロジェクト期間中に出版し、*The New Cambridge History of Japan* のため、『文明開化』をタイトルとする、1870 年代を網羅的に説明する 1 万 8000 語の一章をプロジェクト期間中に執筆した。後者は、プロジェクトのテーマである暴力と思想に焦点を当てる。

学会発表には、多数の成果があった。パンデミックにより多くはオンラインになったが、江藤新平や官僚制の思想史について、スペインでの東アジア研究の学会や日本における国際学会で研究発表を行なった。また、分野を超えて、哲学の学会で、研究方法論について発表した。美術史の学会で、西南戦争の錦絵について講演を準備して完成させたが、体調の関係で参加を急遽中止せざるをえなかった。他にも、複数の発表があった。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 1件）

1 . 著者名 Amin Ghadimi	4 . 巻 5
2 . 論文標題 India in the Formation of Japanese Terrorism	5 . 発行年 2023年
3 . 雑誌名 Cultural Formation Studies	6 . 最初と最後の頁 5-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1 . 著者名 Amin Ghadimi	4 . 巻 -
2 . 論文標題 Arai Shogo and His Global Civil War, circa 1885	5 . 発行年 2021年
3 . 雑誌名 Journal of Social History	6 . 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1093/jsh/shab070	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1 . 著者名 Amin Ghadimi	4 . 巻 x
2 . 論文標題 On Global Time in Revolutionary Japan	5 . 発行年 2020年
3 . 雑誌名 Modern Intellectual History	6 . 最初と最後の頁 x
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 1件／うち国際学会 8件）

1 . 発表者名 Amin Ghadimi	
2 . 発表標題 Fukuda Hideko and the Transimperial Origins of Japanese Terrorism	
3 . 学会等名 第5回アルザス・新世代ワークショップ（国際学会）	
4 . 発表年 2022年	

1 . 発表者名 Amin Ghadimi
2 . 発表標題 On Sanctimony: Shirin Nezamafi in the Global Cultural History of the Present
3 . 学会等名 British Association for Japanese Studies Conference (国際学会)
4 . 発表年 2022年

1 . 発表者名 Amin Ghadimi
2 . 発表標題 Community and Christianity in the Kumamoto Enlightenment
3 . 学会等名 Ninth International Conference, Japanese Studies, “Dimitrie Cantemir” Christian University (国際学会)
4 . 発表年 2022年

1 . 発表者名 Amin Ghadimi
2 . 発表標題 The Japanese Counter-Enlightenment
3 . 学会等名 Global Japanese Studies - Education and Research Incubator Monthly Workshop, Osaka University
4 . 発表年 2022年

1 . 発表者名 Amin Ghadimi
2 . 発表標題 The Environment of Political Crisis in 1873 Japan
3 . 学会等名 Sixth Biennial Conf. of East Asian Environ. Hist. (国際学会)
4 . 発表年 2021年

1 . 発表者名 Amin Ghadimi
2 . 発表標題 Japan as Mexico: The Foreign Policy of Eto Shinpei, c. 1870
3 . 学会等名 Spanish Association of East Asian Studies (国際学会)
4 . 発表年 2021年

1 . 発表者名 Amin Ghadimi
2 . 発表標題 The Culture of Conflict in 1880s Tochigi
3 . 学会等名 Second East Asian Popular Culture Association Conference (国際学会)
4 . 発表年 2021年

1 . 発表者名 Amin Ghadimi
2 . 発表標題 Texts from the Meiji Period
3 . 学会等名 Translation Workshop on Japanese Historical Texts (招待講演)
4 . 発表年 2021年

1 . 発表者名 Amin Ghadimi
2 . 発表標題 Bureaucratic History as Global Intellectual History in 1873 Japan
3 . 学会等名 Association for Asian Studies in Asia (国際学会)
4 . 発表年 2020年

1．発表者名 Amin Ghadimi
2．発表標題 Democratic Terrorism: Arai Shogo and the 1885 Osaka Incident
3．学会等名 European Association for Japanese Studies (国際学会)
4．発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1．著者名 Yuichiro Shimizu, trans. Amin Ghadimi	4．発行年 2020年
2．出版社 Bloomsbury Academic	5．総ページ数 269
3．書名 The Origins of the Modern Japanese Bureaucracy	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6．研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------